

青梅七小 2年間で充実した動物ふれあい授業 児童会引継ぎ式

令和6・7年度の2年間、七小は東京都動物飼育推進校に指定され、獣医師と連携して、ふれあい活動や授業を行ってきました。ゲージを使用し、校舎内で飼う期間を設けたり、授業では、抱っこしたり、心音を聴いたり、さらには爪切りを行ったり、体重を測ったりと多くの体験をしました。高学年は、理科の授業として「体のつくり」、キャリア教育として「獣医師という仕事」という視点からお話いただきました。

これらの活動を通して、うさぎが小屋にいて、飼育委員会の子供たちだけがお世話をしている特別な存在ではなく、私たちと同じく命ある身近な存在としてみんなに可愛がられるようになりました。うさぎもすっかり安心したように子供たちに抱っこされています。

保護者、地域の皆様にも長期休業中のホームステイをはじめ、うさぎ小屋の床の改修のための土の提供等、ご支援いただきました。ありがとうございました。

1月29日児童会引継ぎ式を行いました。6年生一人一人が一年間のがんばりと後輩へのメッセージを伝えました。「みんなから信頼されるように何でも全力でやりました。」「何事にもあきらめずに全力で取り組むリーダーになってください。」「協力し合い、大変なことがあってもみんなで乗り越えてください。」等立派に述べました。新リーダーの4・5年生も「下級生から頼られる、優しいリーダーになります。」「みんなが安心できるように、笑顔で接します。」等決意を宣言しました。

こうした一つ一つの活動が良きリーダーとフォロワーを育て、七小の教育活動の大きな柱になっていると改めて思いました。(七小校長 柿崎洋一)



うさぎの心音を聴く子供



山崎造園さんから土をいただく



メッセージを伝える6年生

青梅六中 たくましく生き抜くことができる生徒

「今後の予測困難な社会の中でもたくましく生き抜くことができる生徒」の育成を目指し、今年度も様々な実践を行いました。中でも、以下三つの取組を特徴的なものとして紹介します。

①『六中ゼミ』や『六中コラボ』といった「総合的な学習の時間」における実践…生徒が自ら課題を見つけ解決、探究する学習活動(六中ゼミ)、グローバルな視点で幅広く活動するゲストによる「講座」(六中コラボ)を新たに展開しました。②従来の学校行事の工夫・改善…例えば体育祭では、生徒数の減少に伴い競技等の数は減らしたものの、生徒が自ら主体的に関わることのできる『スポーツフェスティバル』に形を変えました。地域の皆様にも好評でした。③高校生との交流学習…12月に文化大学杉並高等学校の生徒さんを招き、主に総合的な学習の時間の取組に関する交流を行いました。通常とは異なる集団の中で緊張もありましたが、大変貴重な経験となりました。(六中校長 岩崎 浩示)

